

路字川のオオカナダモも更に遡上することが考えられる。要するに当地方でのカナダモ類の蔓延はとどまることを知らない状況である。

エビモ群落は河川の中流でカナダモ類と長く共存できる可能性をもっている。

この報告を作成するにあたり御指導、御援助いただいた次の方々に厚く御礼申し上げます。神戸女学院大学 矢野悟道氏、神戸大学 角野康郎氏、広島大学 下田路子氏、滋賀県琵琶湖研究所 浜端悦治氏、伊丹市博物館

坂根隆治氏、市立伊丹高校 岡勇知氏。

参考文献

- 竹下 信 (1982) 阪神間主要河川とその水系におけるコカナダモの生態. 伊丹市高紀要 1号
 —— (1983) 猪名川はいまどれほどよごれているのだろう. 同上 2号
 —— (1984) 武庫川・猪名川両水系に生息する沈水性水草の生態分布. 伊丹の自然 1号

抄録 Aquatics Vol. 9, No. 4 (1987)

Wild Rice (A.A. "Bert" Stoddard III)

いくつかのマコモの仲間 (*Zizania aquatica*, *Z. palustris* など) についてそれぞれの北米における分布、栽培状況、生態そして種子の栄養価などについて書いてある。マコモの種子はバランスのとれた食料であり、普通の穀類よりも多くのタンパク質、リジン、メチオニンを含んでいる。1984年にはミネソタ州で370万ポンド、カリフォルニア州で180万ポンドのマコモが作られ、1ポンド当たり4ドルから20ドルで販売されている。マコモは水界生態系の重要な構成要素であり、その種子は野生生物の大切な栄養源にもなっている。

Sportangler's Perceptions and Economic Valuation of Aquatic Weed Management (J. W. Milon and J. C. Joyce)

北米の多くの場所、特にフロリダにおいてはホテイアオイやクロモなどの水生雑草が深刻な環境問題あるいは経済問題を引き起こしている。水生雑草の害のひどさにもかかわらず、池をレクリエーションの場としている人々の水草防除に対する認識について、あるいは防除が使用者にとって経済的利益となっていることを認識しているかについての調査例はほとんど無い。今回、郵送によるアンケートと聞き込みによって調べたところ、多くの人がフロリダでの水生雑草害を深刻に思っており(州外の人を含む)、魚類管理のために防除が必要と認めていることがわかった。また、釣りの場所としては上記2種が繁茂しているところは敬遠されるが、全く生えていない所よりもある程度生えている場所の方が好まれていることもわかった。

Marsh Master-A Unique Tool for Aquatic

Weed Control (J. J. Singer and J. A. Thomson, Jr.)

水草防除用として新しく製作された水陸両用車の仕様について書いてある。水辺への接近が容易なことがこの車の最大の特徴となっている。速度の遅いことが欠点であるが、木本植物や浮葉植物などが繁茂している場所でも群落の上を走り、機械的な刈り取りを行なうと同時に除草剤を散布することができる。

Lake Okeechobee: Bugs a Poppin' (M. Boodle)

1987年7月にオーキチョウビー湖の北西部のハスおよびガマの群落に、除草剤によって引き起こされたと思われる害が認められた。その後の調べでそれはメイガ科の蛾 (*Ostrinia penitalis*) の幼虫の食害によるものと判明した。この年に幼虫が大発生した訳として、天敵昆虫や寄生虫が少なかったことと植物が極端にその分布域を広げたことが考えられる。

Learning Airboat Safety... The Hard Way (J. Van Dyke)

エアボート運転のベテランである著者が、友人に操縦法を教えることになったのだが、その指導中にボートを沈めてしまったという失敗談。操縦技術の進歩には、(1) 慎重に運転し乗り物に慣れる段階、(2) 運転に慣れ一番危ない段階、そして(3) 再び慎重になる安全運転の段階という3段階があり、今回の事故は自信過剰から(3)の段階から(2)の段階に戻ってしまったために起きたと自戒の念を込めて書いている。

(国井秀伸)